

# はばたこう 明日へ



巻頭言

## 関係性の劣化と 道徳性の獲得 ②

近藤 昭一 大正大学・星槎大学非常勤講師

## カリキュラム・マネジメントと 道徳教育 ④

吉富 芳正 明星大学教育学部教授

## 授業づくりのヒント おもしろい道徳授業を創る④

## 1時間の道徳授業づくりに 挑戦しよう! ⑧

鈴木 健二 愛知教育大学教育実践研究科教授

## 道徳科の授業に アクティブ・ラーニングを 位置づける ⑩

野本 玲子 神戸医療福祉大学社会福祉学部准教授

## 環境国際協力の道を 切り開いた北九州市 ⑬

中園 哲 北九州市環境ミュージアム館長



# 関係性の劣化と 道徳性の獲得

こんどう しょういち  
**近藤 昭一**

大正大学・星槎大学非常勤講師  
元 玉川大学大学院教授



## <関係性と道徳性>

道徳性は、人の生き方や人格の中に息づき、その人を支え、生き方を輝かせ、人々や社会、文化的価値をも支える働きをしています。道徳性は、生来のものというのではなく、誕生以来関わり続け、つながり続ける人や生命との関係性によって、人の内面に生じ、人格の基盤として生涯づくものです。学習指導要領解説道徳編（平成20年）では、「すべての生命のつながりを自覚し、すべての人間や生命あるものを尊重し、大切にしようとする心に根ざして、向上心や思いやり、公德心などの道徳的価値が形成されていく」と述べ、道徳性の獲得の起点が「つながりの自覚」にあることを示しています。新しい学習指導要領解説の特別の教科道徳編（平成27年）の中でも、「私たちは様々な関わりの中で生存し、その関わりにおいて様々な側面から道徳性を発現させ、身に付け、人格を形成する」と述べています。本稿では、この道徳性獲得の起点である「つながり」「関わり」「関係性」に着目して、現代の子どもたちの成長上の課題と道徳性の獲得について考えます。

## <関係性と成長上の課題>

さて、子どもたちの成長上の課題については、学習指導要領等の改善に係る中教審答申（平成20年）の記載が「自分に自信がある子どもが国際的に見て

少ない。（中略）不安を感じたりしている子どもが増加するとともに、友達や仲間のことで悩む子どもが増えるなど人間関係の形成が困難かつ不得手になっている」と端的に指摘しています。他にも「精神的・社会的自立が遅れる」「コミュニケーション能力、対人関係能力等（中略）基本的な能力の低下」（「キャリア教育」関連中教審答申平成23年）、「他者を思いやる温かい気持ちを持つことや、望ましい人間関係を築くことが難しくなっている」（「心の教育」関連中教審答申平成10年）等に見られるように多数の指摘があります。

子どもたちの人間関係が希薄化して個別化が進むと、子どもたちは大切な人々と向き合う豊かな人間関係を喪失して、自己と向き合う機会を逸することになります。それにより自己理解・他者理解不全の状況が生じ、自己適応・環境適応が停滞して自立遅滞という不安な状況に追い込まれます。こうした中で自己肯定感が高まるはずもなく、子どもたちの個別化・内向化・群衆化の傾向は強まります。この現象は、子どもたちをたくましい成長に導くはずの「つながり」「関わり」「関係性」が劣化し、私たちの社会が備えているべき人格形成の機能が低下していることを示しています。

## <不適応や問題行動から見えるもの>

この「劣化」は、子どもたちの不適応や問題行動

として現われています。例えば、ここ25年で児童生徒数が430万人以上減ったにもかかわらず不登校児童生徒数は増加傾向にあり、最近4年間の出現率は顕著に上昇しています。また、子どもの自傷行為経験者は12%以上に達するとの驚くべき結果が複数の調査から確認でき、さらに、未成年者の自殺死亡率は平成3年以降急角度の上昇を示しています。これらは「個別化」「内向化」により自己適応不全に至るという関係性の劣化の進行を示しています。

さて、指導要領の改定議論の発端の一つとなったいじめ問題ですが、着目すべきは、周囲にいる子どもたちのいじめへの無関心です。文科省調査や国際比較調査を見ても、いじめを注意したり、先生に知らせたりする傾向は極端に低く、人に関わらない「個別化」が顕著です。さらに、国立教育政策研究所「いじめ追跡調査」でも、同一児童生徒約600人への6年連続12回の調査で、複数回のいじめ被害経験者・加害行為経験者がいずれも約9割を占め、いじめに無関係の者は1割程度であった実情が明らかになっています。これらは、子どもたちが「個別化」して人と関わろうとせず、「群衆化」して健全な集団形成ができない状況にあることを示唆しています。

さらに、改訂で大きく取り上げられた情報モラルについては、成人のネット依存者が約420万人に及ぶなか（厚労省・日本経済新聞）、中高生の7.7%がネット依存状況あるとの調査もあり（兵庫県調査平成28年）、依存症対策が急務となっています。「高校生のネット依存に関する調査（総務省平成26年）」から依存・非依存の両要因を分析すると、その分岐点には生育過程における「関係性」の違いが見えます。対人関係に不安傾向が強く、周囲の目や評価を強く意識し、家族や周囲に対して信頼をもてず、孤独で自信喪失の状況を示す者ほど依存に陥る傾向が強いのです。

このようにネット依存はもちろん、種々の問題行動や不適応現象の背景には「つながり」「関わり」「関

係性」の劣化が確認できます。

### ＜道徳性を育むために＞

「関係性」の劣化が成長の道筋に横たわっていて、子どもたちはそれらを乗り越えられず、同調圧力にびくびくしながら臆病に周囲を眺めている。そんな子どもたちの実情を理解したうえで道徳教育に取り組む必要があります。この観点からすると、指導要領にいう「議論する道徳」の考え方には違和感を覚えます。議論には、価値認知において合理性、淘汰性、戦略性、系統性、知識性等が求められる性質があり、この性質が道徳性を育む切り込み口としてはたして適合するののかという違和感です。

本来、道徳的価値は、関係性によって人の内面に生じ、人格の基盤として生涯息づくものはずです。関係性によってかけがえのない他者の存在を自覚でき、相互の尊厳を実感していく、そのような同心円状に広がるような認知の深まりが、人格の中に道徳性を芽生えさせ、生き方となって昇華されていくものと考えます。こうした内省的な道徳性獲得の様態が、議論の価値認知に伴う合理性・淘汰性等の性質に適合しないのではないかという違和感を拭い去ることができません。

子どもたちの実情をふまえて道徳性を育むには、質の高い関係性の構築が前提となり、その関係性によって子どもたちが自己理解を深め、自他の尊厳を実感して、自己適応と環境適応に進むことが第一段階です。その上に、仲間づくり・集団づくりや社会適応・向社会性にかかる価値を学んで、自己存在に自信を獲得する道筋を確保する必要があります。ここまで進んでくると、さらに高い道徳的な価値を自ら学び、内省によって生き方に取り入れていこうとするはずですが、現代の子どもたちには、関係性によって自他の尊厳を実感する内省的な学びが欠かせないものであり、道徳教育はここに焦点を当てて再構成して取り組む必要があるように思います。

# カリキュラム・マネジメントと 道徳教育

よしとみ よしまさ  
吉富 芳正

明星大学教育学部教授

## 1 いま求められるカリキュラム・マネジメント

### (1) 新学習指導要領の趣旨の実現と カリキュラム・マネジメント

平成28年12月21日の中央教育審議会答申を踏まえ、新しい小学校学習指導要領や中学校学習指導要領が平成29年3月31日に告示された。新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現を図るという理念のもと、子どもたちが新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力の育成が目ざされている。そうした新学習指導要領の趣旨を実現するための重要な柱として、子どもたちが主体的・対話的で深い学びができるようにする「授業改善」とともに、各学校における「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められている。

新学習指導要領では、第1章総則において、カリキュラム・マネジメントについて2か所にわたって記述されている。まず、第1章総則の「第1 小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割」では、次のように示されている。

- 4 各学校においては、児童（生徒）や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善

を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

次に、第1章総則の「第5 学校運営上の留意事項 1 教育課程の改善と学校評価等（※中学校は教育課程の改善と学校評価、教育課程外の活動との連携等）」で、次のように示されている。

ア 各学校においては、校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また、各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。

新学習指導要領の実施（小学校は平成32年度、中学校は平成33年度から全面実施）に向け、改訂のポイントとともにカリキュラム・マネジメントの考え方を早急に普及し、各学校において適切な取り組みが進められるようにすることが課題となっている。

## (2) カリキュラム・マネジメントの考え方

カリキュラム・マネジメントとは、学校の教育目標を実現するため、教育活動と経営活動とを関連付けて、計画・実施・評価・改善の過程を循環させ、学校内外の資源を最大限に活用しながら教育の質を高めていくことである。カリキュラム・マネジメントを効果的に進める鍵は、関係する諸要素を「つなげる」ことである。

カリキュラム・マネジメントの捉え方については、中央教育審議会答申で次の三つの側面が提示されている。上述の、新学習指導要領の第1章総則第1における記述は、これらを簡潔に要約したものとなっている。

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善

を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

こうした三つの側面に示されている事柄は、どの学校でもすでにある程度は行われているが、それらが意図的、計画的、組織的に行われ、学校の教育目標の実現に結びついているかどうかが問われている。今回の学習指導要領では、子どもたちがよりよい人生や社会を創造できる資質・能力の育成を目ざすうえで、特に①の側面が強調されている。

さらに、各学校においてカリキュラム・マネジメントの確立を進めるうえで、田村によるカリキュラムマネジメント・モデル(図)が役に立つ。これは、カリキュラム・マネジメントの要素として、ア. 教育目標の具現化、イ. カリキュラムのPDCA、ウ. 組織構造、エ. 学校文化+個人的価値観、オ. リーダー、カ. 家庭・地域社会等、キ. 教育課程行政を挙げ、それらの構造や相互の関係を視覚的に示したものである。教職員が自校の教育活動や経営活動の全体を俯瞰し、このモデルの上に学校の現状を書き出して検討することで、自校のよさを生かし課題の解決に取り組む着眼点を見いだすことができる。

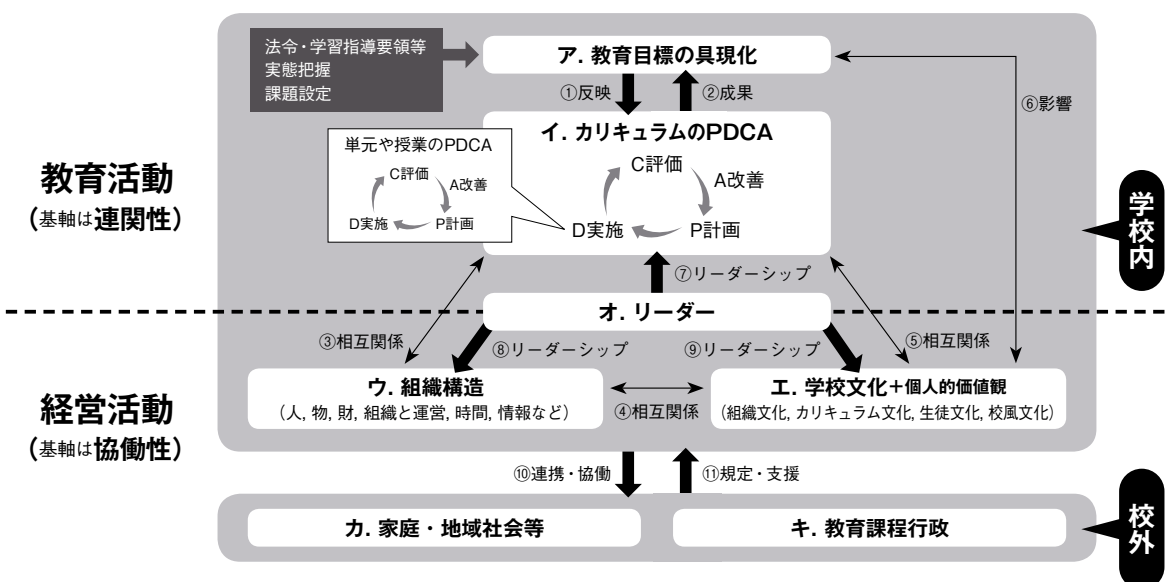


図 田村によるカリキュラムマネジメント・モデル

(田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年)

## 2 道徳教育に関わるカリキュラム・マネジメント

### (1) 道徳教育に関わる カリキュラム・マネジメントの重要性

道徳教育については、学校の教育活動全体を通じて行うという特質から、カリキュラム・マネジメントの考え方を生かしてその充実を図る必要がある。子どもたちがよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする道徳教育は、その目ざすところが学校の教育目標に織り込まれ、特別の教科道徳を要として各教科等での取り組みを横断的に、また各学年での取り組みを縦断的に貫いて展開される。さらに、道徳教育は、子どもたちの学校内での学習や生活にとどまらず、家庭や地域での生活、大人や社会との関わりなども視野に置くことが求められる。そうして、学校内外の資源を効果的に活用することに配慮しながら、道徳教育のよりよい在り方を常に求め続け、動的に改善を図っていくことが重要である。

カリキュラム・マネジメントについては、例えば、道徳教育の全体計画に加えて、さらに「カリキュラム・マネジメント」という名前の計画を作成し実施しなければならないわけではない。これまで行うべきことを行ってきた学校については、特別に新たなことを付加するものではない。新学習指導要領では、道徳教育を進めるうえで必要な事項が「第1章 総則」や「第3章 特別の教科 道徳」にわたって示されている。それらを踏まえ、カリキュラム・マネジメントの考え方を生かして、各学校において行うべきことを学校の教育活動と経営活動の中に適切に位

置付け、さまざまな要素をつなげる意識を持ちながら道徳教育の質の向上を図っていくことが求められているのである。

各学校が進めてきた道徳教育の全体像や具体的な取り組みを振り返り、新学習指導要領の下でそれらの意義を問い直し、継続すべきこと、見直すべきことを一体的に整理していくことがカリキュラム・マネジメントの出発点となる。

### (2) 全体の構造化・体系化と 学びが成り立つ工夫

新学習指導要領では、子どもたちがよりよい人生や社会を創造する資質・能力の育成が目ざされ、各教科等の目標や内容を貫いて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で整理されている。道徳教育で養う道徳性や内容は、それらの資質・能力と密接に関わっている。中でも、道徳性に関わりが深いと考えられる「学びに向かう力・人間性等」は、他の二つの柱の資質・能力を高める基盤となったり、それらをはたらかせる方向付けに関わったりする。

こうしたことを踏まえると、学校の教育目標や道徳教育の重点目標等の設定に当たっては、「知・徳・体」という捉え方や、三つの柱で整理された資質・能力が関わり合っ子どもたちがよりよい人生や社会を創造していくという視点をもって、それらをバランスよく、かつ統合的に育成するように構想していくことが求められる。

このような考え方に立ち、道徳教育の全体計画で

は、重点目標、道徳科を要として各教科等で育成を目指す資質・能力や、そのために取り扱う内容項目などを明確にし、道徳教育全体の構造化、体系化を図ることが大切である。そのような全体の見通しの下で、道徳科の年間指導計画や学習指導案の作成、教科書教材をはじめ多様な教材の工夫などを適切に行うことができる。内容項目についても、形式的に一つずつ取り上げて一単位時間をあてるのではなく、目標との関係において必要に応じ複数の内容項目を関連付けて扱ったり、重点の置き方によって授業時数の長短を調整したりするといった工夫が考えられる。そうした工夫により、子どもたちの主体的・対話的で深い学びが成り立つようにすることが重要である。

学校の実態等を踏まえ、道徳教育に関わる目標や内容等全体についての構造化、体系化や子どもたちの学習を成立させる工夫が十分に行われているかどうかは、学校評価のポイントの一つにもなるであろう。

### (3) 推進体制の整備と学校文化の創造

道徳教育に関するカリキュラム・マネジメントにおいて重要なことは、教育活動の充実のため経営活動に関する諸要素を整えていくことである。学習指導要領では、上述のように、カリキュラム・マネジメントについて「校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携」することが求められている。さらに、「道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。」（「第1章総則 第6 道徳教育に関する配慮事項1」より抜粋）や、「校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて

工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。」（「第3章特別の教科道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱い2（1）」より抜粋）などが示されている。校長は、道徳教育を学校経営の柱の一つに据え、学年や教科等の経営、生徒指導、校内研修などをつないで充実を図るよう組織体制や運営の工夫を行うことが求められる。

その際、道徳科の授業に自信がある教師ばかりではない中で、授業の計画・実施と校内研究を一体的に捉えて展開することが大切である。学校としてポイントを明確にし、授業の計画や展開、教科書をはじめ教材・教具の工夫等に着実に取り組んでいくことである。優れた実践の情報を学校全体で共有し、次の授業に生かし合うようにしたい。

「社会に開かれた教育課程」の実現を図るという理念、そして道徳教育は、その考え方を学校と家庭や地域、そして社会全体が共有し、連携・協働することでよりよく実現される。実際、子どもたちや教育をめぐる課題のすべてを学校だけで解決することは困難である。道徳教育を柱の一つにししながら、子どもたちと教職員でよりよい未来を創造しようとする前向きな学校の文化を創っていくことは、学校からさまざまな情報を積極的に提供しはたらきかけていくこととあいまって、家庭や地域の教育の在り方に好ましい影響を及ぼしていくと考える。

#### 【参考文献】

田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年

授業づくりのヒント おもしろい道徳授業を創る

# 1時間の道徳授業づくりに挑戦しよう!

すずき けんじ  
鈴木 健二 愛知教育大学教育実践研究科教授

## ●1時間の道徳授業づくりのステップ

第1回で、道徳授業づくりの4つのステップを提案しました。ここまでの連載を参考に実践している方には、道徳授業開発のコツが少しずつ見え始めていることでしょう。

ここから、いよいよ1時間の道徳授業づくりの段階に進みます。

しかし、小さな道徳授業づくり（ステップ3）から1時間の道徳授業づくり（ステップ4）の間にはもう少し細かなポイントがあります。

それが次の4つのポイントです。

- ポイント1 その教材ならではの目標を設定する
- ポイント2 教材に興味をもたせる（考えたいと思わせる）
- ポイント3 思考を刺激する発問を工夫する
- ポイント4 身近な問題として意識づける

ポイント2とポイント3は、小さな道徳授業づくりのポイントと共通です。小さな道徳授業をいくつか開発してきていけば、クリアするのはそれほど難しくありません。

## ●その教材ならではの目標を設定する

最も難しいのが、ポイント1の「その教材ならではの目標を設定する」ことです。

多くの学校で道徳の研究授業を参観しますが、目

標の表現内容等についてしっかり協議している学校はほとんどありません。副読本等の指導書に書かれている目標をそのまま書いているだけなのです。そして、その目標の表現は、他の教材にもそのまま使えるような漠然としたものになっています。

これでは、その教材で授業する意味が薄れてしまいます。

「からかっただけなのに」（日本標準5年）という教材があります。この教材で授業するとき、指導案には次のような目標が書かれています。

□ 相手のことを思いやる行動をしようとする心情を育てる。

このような目標だったら、「からかっただけなのに」という教材でなくてもいいのです。「からかっただけなのに」という教材で、子どもたちにいちばん伝えたいことは何なのかを考えれば、目標がその教材ならではのものに焦点化されてくるはずですよ。

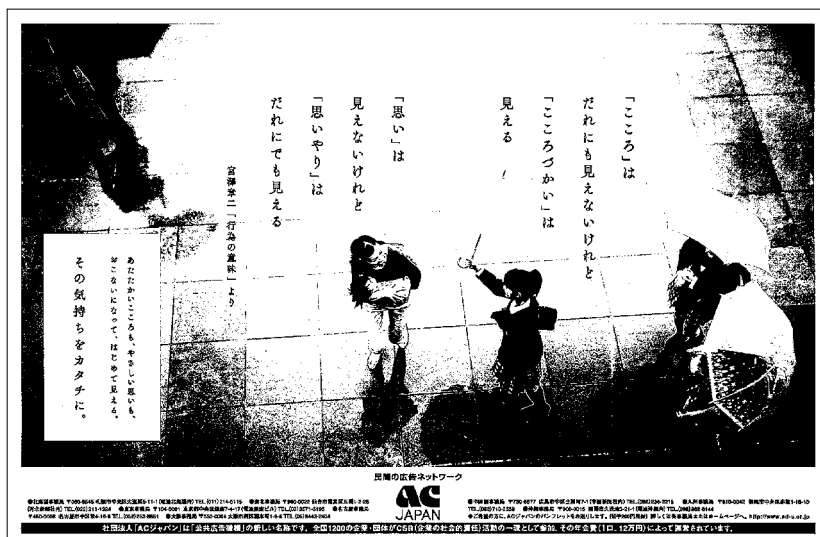
例えば、次のような目標が考えられます。

□ 自分は「からかっただけだ」と思っている場合、相手は「とてもいやな思い」をしている場合があることに気づかせ、相手の立場に立った言動をしようとする気持ちを高める。

このようにその教材ならではの目標を設定されると、授業構成もこの目標の達成をめざして焦点化されてくるのです。

「その教材ならではの目標を設定する」という意識をもちましょう。





## ● 1時間の道徳授業をつくる

次に示したのは、ACの広告です。

これを教材にして1時間の道徳授業づくりを考えましょう。

まず、この教材ならではの目標を次のように設定しました。

□ 心の中で思っているだけでは、何も伝わらないことに気づかせ、思いやりの気持ちを行動で示そうとする意欲を高める。

この教材で子どもたちにいちばん伝えたいことは、「気持ちは行動することによってしか伝わらない」ということです。しかし、「思いやりの行動が大切であることに気づかせる」というような抽象的な目標では授業もぼんやりした内容になってしまいます。

次に、教材に興味をもたせる工夫です。

この授業では、最初に赤ちゃんを抱いて道を急ぐお母さんの写真だけを提示することにしました。このお母さんの様子から気づいたことを発表させることによって、赤ちゃんに対するお母さんの優しさを感じるのと同時に、お母さんが笑顔で見ている方向に誰がいるのだろうという興味をもたせることができます。

そして、子どもたちの思考を刺激するために、次のような発問を考えました。

この二人の女子高生(右で見ている二人)は、赤ちゃんを抱っこしたお母さんのことを、どうでもいいと思っているのでしょうか。

雨の中で赤ちゃんを抱っこしているお母さんのことを、「大丈夫かな」と思っているかもしれませんが、何の行動もしていないので、本当の気持ちはわかりません。この発問によって、「気持ちをカタチに」することの大切さに気づかせようとしたのです。

授業の終末では、この教材の場面を身近な問題として意識づけるために、「気持ちをカタチに」できそうなことを考えさせます。自分の身近なところにそのような場面があることに気づけば、具体的な行動につながる可能性が高まります。

いかがでしょうか。

4つのポイントをうまく活用すれば、道徳授業を自分で開発できるようになります。自分で教材を開発できる力を身につければ、新しくつくられる道徳の教科書を活用して、よりよい授業をつくることも可能になるのです。

(なお、ここで紹介した授業の詳細は、拙著『必ず成功する！新展開の道徳授業』(日本標準)に掲載しています。本書には授業プランを33本紹介しているので、参考にしてください。)



道徳科のアクティブ・ラーニングについて、中学校の実践から述べていきたい。

◆「発達段階」「自我関与」「インクルーシブ」を意識して、「主体的」「対話的」「深い学び」のアクティブな授業をつくる

中学校では、その発達段階から、教師の誘導に敏感であり、知っていることを言われることを嫌ったり、逆に、教師が言ってほしいことを当てようとしたりすることがある。しかしいずれも、本当の意味のアクティブな学びにならない。目の前の子どもたちにとって（どうせあれだろう……。）という想像を超えるような、素直に自分を振り返り、葛藤や気づきのある授業をどうすればつくれるか、一生懸命考えてチャレンジしてみた。いろいろな子の心が動き、追試された方にも好評だった。

本実践では、読み物資料の展開のあと、さだまさしさんの歌に合わせて、自分たちの学校生活や世界の状況を織り込んだスライドのパワーポイントを、

以下のねらいで見せた。

- ①望ましいと考えられる一定の諸価値を教え込むことで内面化を図ろうとする「インカルケーション」は、受け入れにくい子がいる。自分から「主体的」に考えるしかけとして。
- ②中学校の発達段階で、せつかく教材の価値に入り込んでよりよい人間の生き方を考えられていた時に、いわゆる展開後段の「あなたはできるのか」を突き付けられ、時に発表させられることにより現実の無力感を強調するのがマイナスになることがある。さりげなく、深く「自我関与」させ気づかせる方法として。
- ③学校教育全体で取り組む道徳教育の「要」の道徳科で、他の教育を（補充・深化・）「統合」する方法として。
- ④通常学級にいるさまざまな特質や課題を持つ多様な生徒にとっては「振り返る」という学習活動が容易でないことがある。この配慮を意識した「インクルーシブ」な授業づくりとして。

## ◆評価で大切なこと

評価は、他教科のように数値化するのではなく、また、他の生徒との相対評価でもなく、励ましの目的で文章表記することは周知のとおりだが、大きくくりで、内容項目ごとの目標標準評価でないことは再確認する必要がある。今回は、この道徳的価値についてはここまで理解させたい、行動させたいという、パフォーマンス課題やルーブリックの評価指標基準を作って記述するわけではない。

私は「評価」で最も大切なことは、支援の立場か

らも、多様な子どもたち全員を学びの土台に載せ、よりよく生きる希望が持てるような授業の原点に戻ることであると考えている。授業前と授業後に子どもたち自身が学びに気づきメタ認知できるような、自己評価しやすいワークシートを工夫する。授業改善のための授業評価においても、全員の生徒の学びの評価からスタートすべきである。道徳の時間にも教師は皆が参加できる授業を心がけてきたが、教科になるとより一層、全員の学びの意識が必要であると感じている。

## 実践紹介

### 1 主題名 感謝【内容項目B-(6)】

### 2 主教材 「もったいない」

(出典：『もったいない [新装版]』プラネット・リンク編，マガジンハウス，2016年)

### 補助資料 ・歌「MOTTAINAI」

(さだまさし作詩(詞)・作曲、『とこしへ』収録，2005年)

・Wangari Muta Maathai (ワンガリ・マータイ)さんのMOTTAINAIについての演説インタビュー等

### 3 授業のねらい

「MOTTAINAI」の心を考え、自分の生活を振り返らせることを通して、ものや時間の大切さ、自分の環境、まわりの人の愛情などのありがたさに気づき、感謝して生きようとする道徳的実践意欲・態度を育てる。

### 4 授業づくりのポイント

人が感謝の気持ちを感じるのは、他者の想いに気づいてありがたいと感じ、素直に受け止め

られた時です。自分が現在あるのは多くの人々によって支えられてきたからであると自覚すると、生き方が変わります。中学生の発達段階を考え、説教でなく、自分の幸せに自然に気づくようなしなかけを入れた写真とともに、音楽を聴きます。余韻の残る中、ペアや全体で、多様な価値観に基づく感じ方を活かした話し合い活動をし、振り返りでさらに深めていきます。

### 5 授業展開(導入と展開後半を中心に)

まず「もったいないなあ……。」と思うのはどういうことか、毎日の生活を振り返らせます。自分で考えワークシートに書き、ペアで交流したあと、全体で発表。生徒からは「電気のつけっぱなし」「冷蔵庫のあけっぱなし」「食べ残し」「消しゴムを最後まで使い切らない」等、総合的な学習で取り組んだ環境教育の観点で捉えた意見がたくさん出ます。「テストで、わかっているのにまちがえた時！」など、物以外のことに触れる気づきも少しありました。

物を無駄にすることの裏にある労苦や無念を思い描くことで、勿体(もったい)＝物体の本体が無い、その価値が活かされないという、次の意味につながります。

**発問** 「いただきます」は、何に対するどのような想いの言葉でしょう。

ペアで話し合い、「感謝」という言葉、そして「命をいただく」「作ってくれた人」「家畜を飼育する人」「流通」、さらに「天気」「地球」も出てきました。震災後に想いをはせ、健やかな土、水、空気があってこそ食べられること、人間を超えたものへの感謝まで気づきました。

**中心発問** 今、MOTTAINAIことにはどのようなことがあると思いますか。

パワーポイントの写真をしながら歌を聴き、少し呆然とした感じの生徒たちに、まず気づいたことをワークシートに書かせ、ペアで語り、クラス全体で交流しました。自分が全体に言うのは照れるという子もいるので、ペアで出た意見をどちらが言ってもいいことにしました。

教師：その価値を活かしきれないことがMOTTAINAIのよね。

生徒A：休みの日にお昼まで寝てるのはもったいない。

生徒B：それはそれでいいんじゃない？ 疲れをとってるんやし。

教師：なるほど。やりたいことがあるのにできなかつたら時間ももったいないって思うね。でも、ずっと頑張りすぎてても自分がつぶれる。毎日のことで何か他に出た？

生徒C：学校に来ないのは、もったいない。(不登校ぎみの生徒のことを気にかけて想つて。)

生徒D：授業をさぼるんとか、中学校生活を大切にしないのは、もったいない。

生徒全：おへ。(あいつがそんなこと言うんか……という感じ。)

教師：ふへん。自分の時間？ 今の環境？ それをちゃんと活かさないともったいないっていうことかな。

生徒E：親から愛されてるのに気づかないで、反抗ばかりしてるのはもったいない。

教師：(いきなりで驚くが) あ、人との関係にももったいないことがあるのね。自分と誰かとの関係で、何かもったいないことあった？

生徒F：自分を想って言ってくれたことを素直にきけないのはもったいない。

生徒G：人を誤解してるのはもったいない。

生徒全：うん、うん。へえへ。(納得しながら、そんなことも言えるのか……と心を開く雰囲気。)

教師：それはどういうこと？ 何を活かさないことになるのかな？

生徒H：まわりの人の本当の気持ち？ 自分を想ってくれてるってことかなあ。

生徒I：でもそれわかってても何も言えん。あ、やってもないのに「できない」って言うのももったいないか。

生徒J：中2にもなるのにうっとうしいこと言われてけんかして楽しく生きてないのは……。

生徒全：(あれこれぼそぼそ話したり……。真剣に考え込んだり……。)

生徒たちは、まわりの人との関係、感謝の表現、人間としての生き方を見つめ直す深い学びに向かいました。記入したワークシート、発言、振り返りシートをもとに、この時間のねらいの気づきと実践意欲をもつことができたか、その芽生えを把握して評価します。

# 環境国際協力の道を切り開いた北九州市

なかぞの さとし  
中蘭 哲 北九州市環境ミュージアム館長



## 地域の教材をいかした 道徳授業

道徳科で扱う教材について、学習指導要領には、「児童（生徒）の発達の段階や特性、地域の事情等を考慮し、多様な教材の活用に努めること。」（第3章第3の3（1））と示されています。主たる教材としての教科書を活用するとともに、これまで開発されてきた地域のさまざまな教材などもいかにしながら、創意・工夫のある授業をつくることが求められています。

本稿では、中学校の「国際理解、国際貢献」に該当する内容の例として、地域の課題を克服し、その経験を国際協力にいかしている取り組みを紹介します。身近な地域の実情から、国際社会の一員としてのあり方を考えていくことができます。

2011年、福岡県北九州市は環境問題を解決しながら経済を発展させているグリーン成長都市の一つとして、経済協力開発機構（OECD）から、パリ、シカゴ、ストックホルムとともに選ばれました。

現在では「環境先進都市」として国内外に知られている北九州市ですが、かつては「公害の街・灰色の街」と呼ばれていました。

5市合併により北九州市が誕生した1963年には、市内の工場から出る煙は、発展の象徴として多くの人に希望を与えていました。しかし、その煙が人々の健康を脅かしていることに気づいた戸畑婦人会の人たちは、煙をなくすための活動を始めました。家族の健康を犠牲にしてまで豊かさを求めるのはまちがいだと考えたのです。

婦人会の人たちは、まず自分たちでできることから取り組みました。洗濯物が乾く前に汚れてしまうという状況を知ってもらおうと、ばいじんを紙箱で集めるなどの調査を行い、行政や企業に改善を求めました。このような、話し合いで問題を解決しようという取り組みに対し、行政も企業もそれを真摯に受け止め、改善に向けた努力を始め

ました。さらに婦人会の人たちは、自分たちの活動を記録映画にすることで、多くの市民に公害の実態を知ってもらい、市民からの支持を得るのに成功したのです。

しかし経済発展の勢いは、工場から出る煙をばいじんだけでなく亜硫酸ガスによるスモッグ警報を発令するまでに悪化させました。すると行政と企業は、法律で定められた規制よりもさらに厳しい排出基準を設定し、その達成のために、さまざまな環境対策を経済発展に優先して進めていきました。こうした努力の結果、北九州市では1970年代半ばには、健康被害を生じないレベルの環境基準を達成し、公害を克服することに成功しました。

公害克服のために努力する中で、企業では、ある技術革新が起きていました。生産工程を見直すことで、排出ガスや汚水の発生を少なく抑える技術が開発されてきたのです。現場の技術者の努力によって、公害を防止しながら生産コストも引き下げる技術体系が確立されていきました。

「低公害型生産技術」と名づけられたこの技術体系は、経済発展とともに工業化が始まっていたアジアの国々にとって、最も重要な技術でした。環境技術の海外移転と、その技術をいかす人材を育成するため、企業と市民が中心となり、1980年に国際研修機関である「財団法人北九州国際研修協会」(KITA)を設立しました(1992年、現在の公益財団法人北九州国際技術協力協会に改称)。

そこでは北九州市内の多くの企業、大学や行政機関が協力し、公害克服の経験に基づいた研修計



工場内の施設で実習する海外からの研修員

画をつくりました。また、企業の協力を得て、理論だけでなく工場現場での実習も取り入れるなどし、英語のテキストづくりや英会話の習得にも取り組みました。市民は海外からの研修員に、日本文化を紹介したりホームビジット(外国の人が、日本の一般家庭を短時間訪問し、交流すること)を実施して、もてなしたりしました。こうして、市民レベルでの交流も広がっていったのです。

「発展途上国が経済発展する過程で公害を発生させてしまうという流れを断ち切りたい。」という強い思いは、市民、企業、行政に共通していました。

北九州市を訪れた研修員は日本文化にも興味を示し、市民との交流を通して、日本を好きになって帰国していきました。このようにして北九州市は、これまでで150を超える国や地域から8000人以上の研修員を受け入れました。研修を受けて帰国した人たちは、それぞれの国や地域で環境対策を中心に指導的な役割を果たしています。



なぜ北九州市は、このような国際協力に取り組んできたのでしょうか。

北九州地域は製鐵所を中心に、重化学工業都市としてめざましい発展をしてきました。しかし、1970年代後半に高度経済成長が終わりをつげると、地域経済は厳しい不況に見舞われました。この時北九州市は、国際的な技術交流都市として再生を図ろうと決意したのです。「技術協力は、企業にとって大切な国際競争力を失う恐れがある。」という意見もありました。しかし「教えることは自己鍛錬となり、教える側にとっても人材育成の良い機会になる。そして相互に発展していくことができる。」と想着、市民、企業、大学、行政が協力して国際研修機関を設立したのです。

1981年、北九州市は、友好都市である中国大連市からの要請を受けて、公害管理講座を実施しました。その後大連市との交流は、大連環境モデル地区計画の策定へと発展しました。それまで、国際協力事業は国が行うものと考えられていました。しかし環境問題においては、都市間の協力が効果的であることが認められ、国のODA事業と

して実施することとなりました。都市間の連携が国の外交に貢献できる——新しい視点の外交が始まったといえるでしょう。

北九州市は、公害克服の実績とその経験をいかした国際協力により、1990年に国連環境計画（UNEP）から\*「グローバル500賞」を受賞するなど、国際機関から高い評価を受けました。国際的な評価の高まりは、市民の意識をさらに大きく変えていきました。地球温暖化防止や循環型社会の形成など、地球規模の課題についても、市民の提案に基づいたさまざまな環境政策が推進されることとなりました。

国際協力は相手国に援助を与えるだけでなく、自らの地域の発展に貢献し、さらには国レベルの外交にも貢献するものだというを、北九州市は世界に示しています。

※グローバル500賞

持続可能な開発の基盤である環境の保護及び改善に功績のあった個人または団体を表彰する制度。（環境省HPより）



タイにおける生ごみコンポストの普及事業



スリランカにおける水生生物調査を通じた環境指導



## 道徳関連書籍のご紹介



### 道徳授業をおもしろくする!

子どもの心に響く授業づくりの極意

鈴木健二 著

A5判/128頁 定価: 本体1,800円+税

こんな素材・こんな問いかけで、子どもは考え議論するようになる!——教材開発のコツや授業を構成するポイントを解説。



### 「考え、議論する道徳」の指導法と評価

西野真由美・鈴木明雄・貝塚茂樹 編

B5判/208頁 定価: 本体2,400円+税

主体的・対話的で深い学びを実現するための授業と評価の先進事例を豊富に紹介!



### アクティブ・ラーニングに対応した道徳授業

——多様で効果的な道徳指導法

柳沼良太・竹井秀文 著

B5判/120頁/DVD付 定価: 本体2,800円+税

多様で効果的な指導方法を活用したアクティブな道徳授業の考え方と実践例を紹介。実際の授業を撮影したDVD付き。



### 道徳教育を学ぶための重要項目100

貝塚茂樹・関根明伸 編著

B5判/240頁 定価: 本体2,400円+税

新たに「特別の教科」となった道徳教育の理論と方法を、100の項目でコンパクトに解説。



# 教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10  
販売部 TEL: 03-3238-6965 FAX: 03-3238-6999  
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

こちらから  
弊社サイトに  
アクセスできます。



道徳通信 はばたこう明日へ【第4号】 2017年8月31日 発行

表紙イラスト: 手塚けんじ

編集: 教育出版株式会社編集局  
印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 山崎富士雄  
発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864(お問い合わせ)  
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2  
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411